

# 教職支援室便り（10月号）

令和2年 10月13日（火）

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

## 教職特別講座の実施について

昨年10月にスタートした「勉強会」も、本年9月下旬で終了しました。この間、160コマ（1コマ90分）の貴重な時間を、学生の皆さんと共有することができました。私にとって、かけがえのない時間です。そして、学生の皆さんにとっても、大切な時間（壁にぶつかり悩む中で、それを乗り越えていった時間、更なる教職への思いを高めていった時間）であったと考えます。



さて10月に入り、新たに「勉強会」の実施を検討しています。これまで同様、3年生の要望があれば、積極的な支援（寄り添った支援）に努めていきたいです。また、この取組については、その目的や内容等を踏まえ、本年度から、「勉強会」ではなく「**教職特別講座（以下、特別講座）**」と位置付けたいと思います。

「特別講座」の充実が、本学の教職課程の発展につながっていくことを願います。

### 1 目的

- 教員採用試験（筆記試験・面接試験等）に関する演習を多面的・多角的に行い、試験合格に向けて、自己啓発を図りながら、教員になるための基本的な知識や技能等を習得するとともに、教員としての資質能力を高めることができるようにする。

### 2 特別講座・演習内容

#### (1) 教職教養

##### ① 教育法規、

日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則、地方公務員法、教育公務員特例法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、教育職員免許法、児童虐待の防止等に関する法律、発達障害者支援法、いじめ防止対策推進法、児童福祉法、児童の権利に関する条約、障害者基本法、障害者の権利に関する条約、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律、学校保健安全法、学校給食法、食育基本法、人権教育及び人権啓発の推進に関する法律、著作権法、学校図書館法 等

##### ② 答申・通知・報告等

教育課程、教育振興基本計画、学習指導要領、道徳教育、人権教育、インクルーシブ教育、特別支援教育、キャリア教育・職業教育、体罰、生徒指導提要、教員の資質能力、いじめ・不登校問題、チームとしての学校、性同一性障害、コミュニティースクール 等

## (2) 専門教養

小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、各校種の専門的知識に関する演習問題 等

## (3) 面接等

個人面接、集団面接、集団討論、場面指導、模擬授業、小論文作成、自己申告書・自己PR書・調査書・願書などの作成 等

## 3 特別講座・計画

### (1) 10月～1月

・教職教養を中心に、週1～2コマ演習する。

### (2) 2月～7月中旬

・一次試験対策を中心に、週2コマ演習する。  
・教職教養、専門教養、面接試験等を中心に演習する。

### (3) 7月下旬～9月下旬

・二次試験対策を中心に、別途計画（夏季特別講座）により演習する。  
・上記2（3）を中心に演習する。

## 4 事前準備

- 教育小六法2020（学陽書房）
- 生徒指導提要（文部科学省）

## 5 留意事項

- (1) 自己の目標をしっかりとつこと。自ら求める気持ちがないと成果は得られません。
- (2) 特別講座は、大切な授業の1コマで行います。その趣旨を理解し、正規の授業と同じ取組をお願いします。
- (3) 無届欠席については、厳に慎んでください。
- (4) 特別講座で提示された課題は、次回までに必ず取り組むこと。
- (5) 特別講座の演習だけではなく、自主的な取組も重要です。教職支援室には、各自治体の過去の問題集もありますので、積極的に活用してください。
- (6) 専門教養についても、各自取り組んでいくようにしてください。
- (7) 受験する自治体についての情報は、各自細かく調べておくこと。本年度実施の一次試験・二次試験の傾向・内容、配点、倍率などについて可能な限り調べておくこと。
- (8) 受験する自治体については、複数受験することが可能です。事前に熟考してください。
- (9) 英語力向上に努めてください。その資格については、少しでも上級をめざしてください。
- (10) 全国模擬試験が、1月と4月に実施されます。積極的に活用してください。

## 教員採用試験（第二次試験）終わる

本学の学生の皆さんが受験した、教員採用試験（第二次試験）が、9月末ですべて終わりました。一部の自治体では、すでに合格者が発表されていますが、多くは、10月に発表されます。皆さんの合格を信じて、次の「特別講座」に取り組んでいきたいと思えます。

なお、宮崎県の面接試問の一部（本年度実施分）を紹介します。

- ・なぜ英語の先生になりたいのですか。
- ・なぜ宮崎でなりたいのですか。
- ・教育実習では何を学びたいですか。
- ・ICTをどのように活用していきますか。
- ・赴任地の希望はありますか。
- ・教員は多忙であると思えますか。
- ・教員の多忙さに、どのように対応しますか。
- ・保護者や地域の方から信頼されるには、どうすればよいと思えますか。
- ・保護者から強い要望があったとき、どのように対応しますか。

## 教員に求められる英語力の向上

文部科学省「令和元年度英語教育実施状況調査」によると、英語科を担当する教員に関して、英検準1級程度以上を取得している教員の割合が、中学校38.1%（昨年度36.2%）、高等学校72.0%（昨年度68.2%）であることが分かりました。次年度全面実施される中学校学習指導要領では、英語科の授業について、「英語で行うことを基本とする。」と明記されているなど、更に英語科を担当する教員には、英語力が求められます。

また、本年度より、小学校高学年では「外国語（英語）科」、小学校中学年では「外国語活動」が正式に位置付けられました。学校現場では、「外国語（英語）科」や「外国語活動」を、専科教員が担当する動きもありますが、やはり多くは学級担任に委ねられているのが実状です。小学校の教員にとって、英語力を身に付けることは大きな課題です。改めて、本学の卒業生の活躍を期待するところです。

## 前期教職支援室活用量「延べ350名」

昨年度、教職支援室の来室者数は、「延べ333名」でした。本年度は、コロナウイルス対策のために、電話やメールで相談される方も多くなり、9月末現在（前期）で、「延べ350名」の皆さんが活用されています。

相談者の多くは学生の皆さんですが、中には卒業生や学校現場の先生方もおられます。学習指導や生徒指導をはじめとする、学校現場の問題や課題は、年々深刻さを増しているように感じます。今後も相談者の方々のニーズに応じて、幅広く支援をしていきたいと思えます。



# 道徳の教科化に思う！（シリーズその41）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について掲載しています。今回は、「教材・銀のしょく台・指導資料その1」として、教材の見方・考え方についてまとめました。本教材については、令和元年7月号に関係資料を掲載しましたが、今回は更に詳しく述べます。

なお、次回は本教材に関する発問構成等を紹介します。

## 1 出典「教科用図書」

東京書籍、学校図書、教育出版、学研教育みらい、廣済堂あかつき

## 2 対象学年

小学校5・6年生

## 3 ねらい

内容項目B－（11）「相互理解、寛容」

人には他者の過ちや立場の違いなどに対し、不利益感や偏見から自己本位（自己保身）に陥りやすい弱さがあることに気付かせながら、一方で自己を謙虚に見つめ戒めたり、他者の立場を広い心で思いやり、過ちを許したりするなどの「人間尊重の精神」もあることを感得させ、よりよく生きようとする心情を培う。

## 4 指導のポイント

本教材には、刑務所から出てきたばかりのジャン・バルジャンに対して、謙虚で寛容な司教の姿が、一貫して描かれている。温かくジャンを迎え入れ食事をもてなすなど、その優しさに満ちた司教の言動は、児童の心を打つものである。本時のねらいに迫るためには、当然、司教の温かい言動とその底に流れる思いを話し合うことが考えられる。しかし一方で、児童にとって次元の高い価値観との出会いであり、自分との関わりの中で考えることができず、「崇高な偉い司教様だからできた。」と捉えてしまうことも懸念される。これらを踏まえ、指導に際しては、児童が、司教の謙虚さや寛容さなど、心の豊かさを学ぶとともに、司教を一人の人間として感じ取り、自分との関わりの中で考えることができるよう、発問を工夫することが重要である。

展開前段の前半においては、まず児童が司教の言動で、驚いたり、疑問に思ったり、感動したりした場面を明確にする。児童からは、ジャンを泊める、食事をもてなす、銀の食器を盗まれる、憲兵（警察官）に連れてこられたジャンに語りかけるなどの場面が出されるであろう。その上で、それぞれの場面の司教の気持ちや考えを話し合い、自己を謙虚に見つめ戒めたり、他者の過ちを広い心で許したりするなど、司教の「人間尊重の精神」を浮き彫りにする。

そして、展開前段の後半は、前半の話合いをもとにしながら、一方で司教と同様の言動はできそうにないことを児童に考えさせ、司教を身近に感じながら自分を見つめさせる時間としたい。そのために、発問「19年間も刑務所に入っていたジャンを泊めた司教の気持ちが、本当にわかりますか。泊めなくてよかったのではないですか。」、発問「銀の食器やしょく台をあげた司教の気持ちが、本当にわかりますか。そこまでジャンのことを思わなくても、よかったのではないですか。」など、司教の言動に対して批判的な発問を投げかける。期待する児童の反応としては、「ジャンを泊めたことはよかったと思うけど、自分にはできそうにない。」、「司教のしたことは立派だ。でも自分にはむずかしいことだ。」であるが、「泊めなくてよかった。」、「そこまでジャンのことを思わなくてもよかった。」などの反応も、自己を語っているものであり、教師は温かく受け止めるようにしたい。これらの発問は、児童が自分との関わりの中で、「自分ならどうするか。」と意識させるための大切な発問である。

更には、発問「ジャンをふるえさせたものは何だったのでしょうか。人は、そこまで優しくなれるものなのでしょうか。」を問い、司教を身近に感じながら、自己の生き方についての考えを深めさせるようにする。また、教師も、一人の学習者としての姿勢を示し展開後段に導く。

なお、導入においては、主題名、教材名、登場人物、時代背景、読む視点について話し合う。特に、時代背景「1800年代のフランスの話、恐怖政治の時代」、読む視点「驚いたこと、疑問に思ったこと、感動したことなどに留意して読む」については、展開前段の発問に関わりが出てくることから、十分におさえておくようにする。

## 道徳教育講演会のお知らせ



道徳教育講演会について、下記の通りお知らせします。私としては、広く県内の先生方へのご支援の機会をいただき、ありがたく思っています。道徳の教科化以降の問題・課題を踏まえながら、今後の道徳科の在り方についてお話をする予定です。

なお、当日は、コロナウイルス対策として、「ズーム」を活用しますが、可能な限りリアルな雰囲気の中で、先生方と模擬授業や意見交換をしながら進めていきたいと思えます。

- 1 主催  
宮崎県教育研究連合会
- 2 日時  
令和2年11月14日（土）10:00～12:15
- 3 演題  
道徳教育を支える道徳科の不易的要素とは  
～読み物教材に真正面から向き合う道徳科の時間を考える～
- 4 講師  
宮崎公立大学 曾我 文敏
- 5 方法  
Zoom Meetingによるオンライン研修

※ 詳しくは、宮崎県教育研究連合会のホームページをご覧ください。